

# 富岡製糸場周辺地区における観光まちづくりの研究

松原勇斗

本研究では、団体観光客の富岡製糸場を活用した観光の現状を把握するため、インターネット上に掲載されている富岡製糸場をコースに含むツアーの分析を行なった。

先行研究（西尾 2014）では、富岡製糸場観光における課題解決のための方向性として、団体観光客の誘致が必要であると述べている。団体観光客を誘致するためには、訪れる観光客がどのような動きをしているのか、又どのような場所と共に観光しているのか等の団体観光客の実態を知る必要がある。そこで、本研究では、インターネット上に掲載されている「富岡製糸場」をコースに含むツアーを調査、分析することで、富岡製糸場を訪れる観光客による観光の実態を明らかにし、団体観光客を誘致するための方向性を検討することを目的とする。

調査対象には、観光庁が公表している「旅行業者取扱額」内の「主要旅行業者の旅行取り扱い状況速報各社別内訳（令和3年4月～令和4年3月計）」を参考に、海外旅行、外国人旅行、国内旅行を合計した合計取扱額上位2つの旅行会社、JTB（9社計）、KNT-CTホールディングスの公式ホームページ内に掲載されているツアーを設定した。

調査では、始めに対象となるツアーをリストアップし、各ツアーの日程・スケジュールの詳細を調査した。その後、時間・費用・出発地・共に観光されている場所の分析を行なった。

調査の結果、富岡製糸場を訪れる団体観光客は、平均滞在時間約48分、平均費用118,022円をかけ、宿泊しながら、軽井沢等、近隣の観光地や、伊香保温泉、草津温泉、榛名湖等、群馬県内の観光地と共に観光を行なっていることが分かった。しかし、富岡市内で、「富岡製糸場」と共に、観光されている場所はなかった。また、富岡製糸場と共に、世界文化遺産に登録されている絹産業遺産群（高山社・田島弥平旧宅・荒船風穴）をコースに含むツアーは存在しなかった。

今後、富岡製糸場を活用した観光をよりよいものとするためには、富岡市内の観光地の宣伝を行なうこと、絹産業遺産群を活用した観光コースを策定することが重要であると考えられる。今後はそれらについての検討を行なっていく必要があるだろう。